

発行：伊藤秀昭事務所
豊橋市東田町西前山144-14

発行日：2007/初春
NO.70-2

ひであきレポート

積極的な行政経営の時代

地方主権元年にいざ船出！

昨年12月、「地方分権改革推進法」成立しました。「住民に身近な行政はできる限り自治体に委ねることを基本とし、権限を移譲する」と明記しています。このことは三位一体改革などに続く、第2期分権改革の足掛かりとなり、地方に権限を移すことで税金の無駄遣いを住民が監視しやすくなるという側面も期待でき



ます。

こうした動きのなかで伊藤ひであきは12月議会で、41回目の一般質問に登壇し、「積極的な行政

経営」を市長に迫りました。

ともすれば行政改革といえは「減量・人減らし・節約」だけが強調されますが、信長や、吉宗の改革は、地方から発信した積極的な改革が日本を変えていったように、積極的な地方からの都市経営は時代の要請です。そのうえ、進化するIT社会は下から上への改革を可能にする要素を多分にもっています。

豊橋市は昨年3月「豊橋市経営改革プラン」を示し、現在の職員3500人を3290人にまで削減する計画をはじめ、効果的・効率的な行政体制に向かって取り組んでいます。国は更なる行革推進の指針を地方に迫っています。

「地方にできることは地方に」「民間にできることは民間に」のいよいよの具体化であり、競争原理を働かせて経費を減らし、「民

の知恵」を生かして「住民サービスの質の向上」を図らなければなりません。

今年は所得税から住民税へ本格的な税源移譲がスタートすることになり、市全体の6割の人が対象になる課税所得200万円以下の方の住民税は現在の5%から10%と倍になるわけ（その分所得税が減ります）で、市役所をみつめる市民の眼差しは熱いものになるのはまちがいありません。

また、4月からは二人の助役は副市長となり、収入役も廃止されていく動きになります。「自己責任で適切なトップマネジメント体制の強化」のためです。

今や、地方は自己決定による自己責任の自己負担の「行政経営の時代」に入っています。民間企業で徹底したQC手法を身につけた、伊藤ひであきの本舞台です。

< 伊藤ひであき物語 >



・昭和22年1月岐阜県生れ、伊勢湾台風などで2度の水害、交通事故で父を亡くし、父の残した多額な借金の三重苦のなかで中学時代を過ごす。野球部、生徒会長。
・岐阜県立大垣北高校時代はサッカー部ゴールキーパー、岐阜県大会準優勝が最高成績。

・大学入試の挫折、岐阜市内の牛乳店で働く。昭和46年、日比谷公会堂での全国青年弁論大会で優勝し、暗

闇のなかでもがいた青春時代に光が。

・昭和48年3月コマツ入社、ブルドーザなどの建設機械の営業マンとしてビジネス最前線を奔走。

・この間、昭和51年から4年間、働きながら学び、東京八王子の大学までスクーリングに通い、創価大学を通信教育で卒業。

昭和54年12月転勤で豊橋へ。昭和62年2月コマツ退社。

・昭和62年4月豊橋市議会議員に立候補、初当選。

・現場を走る議員活動、生活実感のある議会活動を貫き、20年。

地方議員として中部で初のホームページを開設するなど、ITを駆使し、論陣をリード。現在5期目。

太田代表、故郷で時局講演会

新しい公明党、東三河への熱き思い



12月17日(日)
午後と夜、太田代表
にとって思い出深い
豊橋市公会堂で「公
明党時局講演会」が
盛大に行われました。

太田代表は60年
ぶりに改正された教
育基本法など臨時国
会における自公連立
政権の成果を強調

し、教育基本法につ
いて、「公明党は『個人
の尊厳』などの基本
理念を堅持するよう
全力で闘った」とし
た上で、教育環境や
社会状況が制定当時
とは大きく変わった
ことに対応するため
に、生涯学習や家庭
教育の重要性を盛り
込んだと強調。「間
違ひなく、今の日本
の社会状況を軸にし
たバランスのとれた
教育基本法ができた
」と力説しました。

また、今臨時国会
において防衛「省」
移行関連法、改正官
製談合防止法、多重
債務者の増加防止を
目的とする貸金業法
などの多くの重要法
案が成立したことを
紹介し、「連立政権
は大きな仕事をし
た」と強調しました。



太田代表(左側)の実家の前で07
政治決戦の大勝利を誓う伊藤ひで
あき(右側)06/10撮影

さらに、「社会の課題に真正面
から取り組み、困っている人
の現場にすぐ行って、話を
聞き、手を打って解決する
、必要ならば法律や条例を
変えていくのが新しい公明
党だ」と述べ、2007年の
統一地方選、参院選への
絶大な支援を呼びかけま
した。

「『陽は東から昇る』いよいよ
政治決戦の火の手を東三河
からあげていただきたい」と
呼びかけ、大きな拍手が
寄せられました。

終了後も、玄関で一人一人
に握手する太田代表を、取
り囲む支持者たちとの熱
き交流はいつまでも続
きました。

また控室に太田代表を表敬
訪問した早川勝豊橋市長
は市制100周年記念マ
スコット「トヨッキー」
を贈り、豊橋の政治課
題、特に道路問題につ
いて協力を要請しまし
た。



豊橋の政治課題、特に道路問題について協力を要請しました。



太田昭宏氏略歴

昭和20年10月 疎開先の愛知県
新城市で生まれる。

昭和31年4月 小学校5年生の
時、豊橋へ転居。新城小学校から
豊橋市立東田小学校へ転校。

昭和33年4月 青陵中学校に
入学。青陵中学校時代に生徒会
長として、青陵街道に夏みかん
並木を植樹することを提案。

この夏みかん並木は、後に詩
人のサトウハチロー氏が長編詩
で讃えた。あれから35年経った
今も、青陵中生徒会とPTA、そ
して地域の皆さんの手で守り、
育てられている。

昭和36年4月 県立時習館高
校に進学。昭和39年4月 京都
大学に進学、土木工学科で耐震
工学を専攻。

昭和46年 社会改革に目を向
けて新聞記者に。国会担当記者、
論説記者として、福祉、平和問
題で健筆を振るう。

平成5年7月、衆議院選挙で
初当選。平成18年9月、公明
党代表に就任。現場第一主義で、
庶民の本音を生かす、分かりや
すい、生活者の政治をめざす。

朗報！児童手当に乳幼児加算、今春から

0歳、1歳、2歳児には5000円加算され1万円に

あなたの身近に、ひであきの実績！

市民に分かりやすい政治



最近の公共工事の現場に「道路の舗装を直しています」など市民に分かりやすい工事看板が設置されるようになりました。また、市内に全戸配布された「行財政白書」も家計に置き換え、対話形式で説明されています。これらは「市政を分かりやすく」と提案したものです。

好評の女性相談室



経験豊かな看護師がサポートする「女性相談室」が、昨年の五月に市民病院に開設されました。これは、「女性専門外来の設置」を要望した四万人を超える署名に応えようと平成十六年九月議会で実現を迫ったものです。引き続き「女性専門外来」実現に取り組みます。

ブックスタート始まる



絵本を介して、赤ちゃんの「健全な成長」を願う豊橋版ブックスタート。平成十七年度からは、母子保健センターでの四ヶ月健診時に、絵本の配布が始まりました。五冊の絵本の中から親に選んでもらい、市内の授産施設で製作した温もりのある手作りの袋に入れられてプレゼントされています。

段差解消、安全対策、道路改修、側溝改修など地域環境整備着々と



東田坂上の横断歩道の段差解消



東新町

仁連木町



前畑町



東田町交差点の安全対策



今回も12月議会の一般質問で引用した一部が、「東日新聞」に記事として掲載されました。「団塊ジュニアを育てよう」と提案するために引用した話。

愛産大三河 高校が98(平成10年1月2日、念願の全国高校サッカー選手権大会出場を果たし、千葉県習志野市秋津サッカー場で多門・滝川第二と対戦した▼三河高校は岡崎市内にあり、豊橋からも通いやすい。中学卒業を前に大志を抱いた豊橋、豊川のサッカー少年有志が示し合わせ三河高校に結集した。「全国に行くぞ」。入学後、改めてグラウンドで誓い合った▼その年、レギュラーの半分以上を東三河出身者が占めた。うち2人は2年生だった。立ち上がり、押し気味に試合を進め、ペースをつかんだものの、後半に入ってから目立ち、1対2でロスタイムへ▼直後にPK

Kを得た。2年生エースが決めて同点、そのままPK戦になった。両校とも2人ずつ決めた3人目、その2年生エースがまさかの失敗。続くもうひとりの2年生も失敗し、万事休す。「あの時PKを決めていたら、プロ入りの道も違っていただろう」と言われた▼その後、2年生エースは紆余(うご)曲折を経て再起。大津市にきたばかりの成蹊スポーツ大学に進み、キャプテンとして活躍。今年、ウィッセル神戸に入団、東三河初の「リリーガー」となった。豊川東部出身の近藤岳登さん、25歳だ。もう1人の2年生は公明党のベテラン豊橋市議の長男、海外に出た。



議員定数削減案否決！

12月定例豊橋市議会最終日の12月18日、「市議会議員の定数40を38にするための改正条例案」がついに上程されました。

「地方分権の時代に議会の権能はますます重要性を増す中で議会の質を高める努力と併せ、議会改革を進める第一歩として、議会自らの意思で議員を38人に減らすべきである」と清志会11人、公明6人、無所属1人の計18人で共同提案しました。提案者18人が答弁者側に座り、議員同士が向き合う形で真剣な質疑が4時間にわたって続きました。

「多様な市民の意思が反映されなくなる」「経費の節減だけで議員定数を論ずるべきではない」などとの意見が出される一方、「情報化の時代、行政への幅広い市民参加が図られている」「議会自ら血を流し、より効率的な議会を市民に示すべきだ」などのやりとりもありました。

結局、採決の結果、「議員定数削減に賛成」と起立した議員は18人で、否決されました。

提案者の一員に名前をつらねた伊藤ひであきは、その先頭に立ち、議員定数削減の論陣を張りました。「議会の量(定数)と質の改革」に今後も全力で取り組みます。

ひであきの政策マニフェスト

地方主権の規範「自治基本条例」の制定。
時代に合った議会改革、議員定数削減。
行政経営の時代の市役所改革、東三河合併推進。
豊橋っ子の瞳輝く教育環境整備。団塊ジュニアを次代の力に。

長寿を喜べる地域福祉、介護予防の推進。
新530運動の推進、エコビレッジ構想の推進。
中小企業支援策の強化と地域経済活性化の推進。
防災・防犯対策の推進で安全・安心の街づくり。

実現させたユニークな提案！

7月の「三河湾浄化の日」。

8月22日を中心「市民福祉の日」。

新焼却炉の余熱利用を中心に豊橋環境村(エコビレッジ)構想。

防災対策の「地震ハザードマップ」。

緑の街の「巨木・名木・ふるさとマップ」。

万博に呼応した「東三河森林祭」の開催。

池田小事件を教訓に地域安全のための「校区見回りさん」。

路面電車の「競輪場前電停」改修「駐輪場」設置。

18年間の朝倉川清掃活動の積み重ね、「朝倉川530大会」に拡大。

市立高校の「単位制」導入。

市民病院に「女性相談室」開設。

全国でも模範的な「行政評価システム」の構築。

市長など特別職の退職金縮減。

市民にわかり易い工事看板。

「ひでレポ」配り続けて20年

私の議員活動は「ひであきレポート」とともにありました。作り続けて、配り続けて二十年です。朝早くから、「ひでレポ」を配って、三八朝市では配りながら多くの市民と対話し、時には街頭演説で熱く公明党の政治を訴え、そしてITを駆使し、論陣を展開し、地域の中へ、市民の中へ……。これが、私のめざす地方議員像であり、これが私の生き様です。



いつでも、どなたでも
市民相談は伊藤ひであきへ
電話 53-3483
迅速・丁寧・即決

無料法律相談をお気軽に
市民文化会館第6会議室 午後6時半より
1月12日、19日。2月2日、16日
3月2日、16日。4月6日、20日



<http://www.itouhideaki.com>

携帯電話<http://www.itouhideaki.com/indexm.html>

真面目に努力する人が報われる社会を！